

文化・交流—新しい地域創造

ロゼ

文化情報誌 ロゼ
Art information of Fuji city
Culture Magazine ROSE
Vol.4 SUMMER 1993

夏号



Vol. 4

華麗なるキエフ・バレエ、ロゼに咲く!!

世界の中のバレエファンを魅了しつづけるロシアのサンクトペテルブルク・マリンスキー劇場キエフ・バレエ、二〇〇年の歴史をもつこのバレエ団は、常に世界のバレエ界のメインストリームを歩みつづけてきました。キエフ・バレエはチャイコフスキーの「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」を世に送り出したことでも有名であり、一糸乱れぬコールド・バレエの美しさは他に並ぶものがないといわれています。

この名門バレエがロゼシアターの舞台上に登場することは、まさに夢の実現といえましょう。

今回の来日公演は、東京・横浜・名古屋・大阪の大都市のほかには、富士市だけです。



美しく幻想的なキエフ生誕の都、サンクトペテルブルク(旧レニングラード)モスクワと並ぶロシアの大都市、サンクトペテルブルク市は二年前にはレニングラードと呼ばれていました。十八世紀の初頭、有名なピョートル大帝によって建設されたこの都市は、当時ヨーロッパの一流建築家、芸術家たちにより綿密な計画のもとに建設されたといわれています。

ロシアのなかでも、もともと西欧を感じさせるこの都市は、初夏の新緑の季節、白夜の頃が特に美しく、また冬の夜運河のほとりの建物に外灯に足元から照らされる光景はあまりにも幻想的で、バレエの舞台シーンそのものときさいいわれています。

十九世紀には帝国の首都となり、賑わいはじめたこのまちを背景にプーシキン、ゴッリ、そしてドストエフスキーなどが小説を書きはじめました。その幻想的な雰囲気は、ドストエフスキーのロマンティックな短編「白夜」のなかに見事に描かれています。

さまざまな歴史を背景に輝きを増し、華麗に成長を続けるグラントバレエ

キエフ・バレエは、レニングラード時代にはキエフ記念レニングラード・オペラ・バレエ劇場バレエと呼ばれていました。キエフ・バレエは、マリンスキー劇場オーケストラも来日する引越公演で私たちは名門バレエの真髄に触れることができます。演目は、キエフ・バレエが一八九二年に初演した「くるみ割り人形」です。特に注目したいのは、それが芸術監督ヴィノグラードフの手になる日本発公開の新演出版であること、その「くるみ割り人形」がロゼシアターでも上演されるということです。チャイコフスキー没後一〇〇年にあたることし、「くるみ」初演から一〇一年に、次なる一〇〇年に向けて「くるみ」の新たな伝説がキエフから羽ばたこうとしているのです。クリスマス・イヴの夜に繰り広げられる少女クララに贈られた幻想的な夢の物語「くるみ割り人形」、いまや欧米では、クリスマスシーズンになくはならない舞台となっています。日本でも、バレエの第九と呼ばれるほど十二月の音楽シーンに欠かせないプログラムとして定着しています。

幻想的でロマンティック、そして演目、ダンサー、振付、時季とすべて揃った今回のバレエ公演、十二月十五日の夜、ロゼシアターは興奮と感動に包まれることでしょう。

多くのアーティストを輩出し、世界のバレエファンが注目するキエフ・バレエは数多くの名ダンサー、名振付家を輩出しています。

バヴァロア、ニジンスキー、バランシン、そして新しくはヌレエフ、バレシニコフなどすべてキエフ出身で、彼らなくしてバレエ史を語ることはできません。さらにチャイコフスキーの代表作に「くるみ割り人形」「眠れる森の美女」を初演した劇場でもあり、世界のバレエ界にキエフの果たしてきた役割の大きさは筆舌に尽くしがたいものがあります。

現在ではその長い歴史と伝統から世界最高峰に位置するバレエとして、常に世界のバレエファンの注目を集めています。

名作「くるみ割り人形」の新演出版、日本初公開をロゼシアターで上演!!

来日の主なスタッフ

- ◆芸術監督: オレグ・ヴィノグラードフ
- ◆指揮: ヴィクトル・フェドートフ
- ◆管弦楽: サンクトペテルブルクマリンスキー劇場オーケストラ
- ◆来日予定ソリスト:
- ◆ラリッサ・レジュニナ
- ◆アルティナイ・アイルムラトフ
- ◆ユリア・マハリナ
- ◆コンスタンチン・ザクリンスキー
- ◆アレクサンドル・クルコフ

※キャストは当日決定。
※出演者はやむを得ない事情により変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



ロフは革命後この都市の市長になった人物です。それ以前は、帝室マリンスキー劇場と呼ばれ、このバレエ団は帝室バレエと呼ばれていました。

一九一七年のロシア革命を境にロシアは動乱の途(みち)をたどり、帝室マリンスキー劇場は二〇年に国立アカデミー・オペラ・バレエ劇場と改名し、三五年には暗殺された革命家キエフの姓を冠せられ、先の名称となりました。レニングラードはレーニン(町)という意味で、ペテルブルクあるいはペトログラードの二四年以降の呼称です。現在では、ソ連邦崩壊後のロシア復活により元の地名に戻りサンクトペテルブルク・マリンスキー劇場バレエという呼称になりました。

この劇場の創立は一七八三年ですが、バレエ団としての起源はさらに古く一七四二年となっています。その後劇場の演出家アティバの手によりチャイコフスキー、ガラスノフの音楽を使い、バレエの交響乐的展開が発表され、壮大なグラントバレエの型が完成されました。

EVENT

観たり、聴いたりホットなイベント情報満載

A・LA・CARTE



新しい息吹きで名曲を奏でる、若き実力派達の演奏
『室内楽ラウンズ』

※十二月十九日開演 (中ホール)
全席指定三、五〇〇円
学生席一、〇〇〇円

新しいホールの門出を祝って、内外のコンサートで入賞したり、音楽賞を受賞した若き演奏家のみなさんがロゼシアターに集まりました。国際的にも高い評価を受けている素晴らしい才能の共演は、多くの聴衆の感動を呼ぶことでしょう。

●主なプログラム(予定につき変更もあります)
茶色の小瓶 富岡利之(ニール)ハート
ムーンライト セレナーデ 富岡利之(ニール)ハート
カネマイハラス 水森亜土(ニール)ハート
ジャズ・オン・マイマインド 富岡利之(ニール)ハート
イン・ザ・ムード 富岡利之(ニール)ハート
ジャズ・オン・マイマインド 富岡利之(ニール)ハート
ドラム・ブギ 中川喜弘(ニール)ハート
スターダスト 中川喜弘(ニール)ハート
セトルズ・ブルース 中川喜弘(ニール)ハート
枯葉(スワン) 世良謙
ジレンマ・ソング・サウズ・サウズ 世良謙(ニール)ハート
メモリス・オブ・ユー 鈴木重三(ニール)ハート
ラバカムバック・トゥーミー 鈴木重三(ニール)ハート
鈴懸の径 鈴木重三(ニール)ハート
シンジ・シンジ 鈴木重三(ニール)ハート 他

昭和二十年代の後半から四十年代にかけて、当時の若者たちは、熱気あふれるジャズに青春の血を燃やしていました。グリーン・ミラーやペニー・グッドマンのジャズは単純にして明快、心地よいスイング感で多くの人の心をとらえ、たちまち日本国中に広がりました。現在までジャズが静かなブームを呼んでいます。かつて「ビッグフォー」の名で人気を独占したドラマー、ジョージ・ジョー、昭和三年ピーナツ・ハッコ―と共演した大ヒットした「鈴懸の径」の鈴木重三(クラリネット)、デキシーからモダンまで、シャレたセンスと確実なテクニックで聴衆を魅了する世良謙(ピアノ)、結成以来三十五年、常に第一線で活躍する我が国の代表的ビッグバンド富岡利之とニールハート、このほかにヴォーカルの水森亜土、トランペットの中川喜弘を加えた、オールスター出演によるジャズフェスティバル、十二月八日にはおなじみの顔ぶれでおなじみの名曲をたつぷりとお楽しみいただけます。



●出演者
指揮 史記(読売日本交響楽団コンサートマスター) 矢部 達哉(東京交響楽団(ソロコンサートマスター))
ブライオリオン 豊嶋 泰嗣(ワグネル・新日本交響楽団)
チエロ 向山佳絵子(ワグネル、カサド国際コンクール優勝)
吉田 秀(NHK交響楽団奏者)
ピアニ 小川 典子(ワグネル、国際コンクール三位)
●プログラム(予定につき変更もあります)
モーツァルト/セレナーデ/アイネクライネナハツクネ
サラサテ/ニのヴァイオリン/ピアノのための「ナツメ」
ロンドン/ハルヴェン/バサカリア
ロシアン/四重奏のナタ第一番(長調)
ドビュッシー/「映像」より
シューベルト/五重奏曲「鱈」 他

時を超えたサウンド、日本民俗音楽の躍動
『津軽三味線花の大競演』

※十二月二十一日十九時開演 (中ホール)
全席指定三、五〇〇円

我が国、津軽三味線の大家として、高橋竹山とともに高橋初次郎の名は国際的にも有名です。彼は、日本で唯一、津軽楽奏団「KAZE」というグループを率いて、国内はもちろん海外にまで演奏ツアーを行い評判をよんでいます。近年若者を中心に民謡の愛好者がふえ始め、これまでの概念を超えたエスニック・サウンドとして「KAZE」の人氣が高まってきました。今回、歌手原田直之をゲストに迎えて、一段とパワーアップされた「KAZE」に期待下さい。



●プログラム(予定につき変更もあります)
豊嶋 泰嗣(ワグネル/ピアノ) 豊嶋 泰嗣(ワグネル/ピアノ)
カミット・ラン・パルティータ/リリー・ワグネル 他

三度予選で落ちたことに抗議して、名ピアニストのマルタ・アルゲリッチが審査団を脱退したことが物議をかもしたのです。ワグネル音楽協会は彼を「たぐいまれなる独創性を備えたピアニスト」と評し、特別賞を授けましたが、当時ミス・アルゲリッチのコメント「この人は天才だわ」が世界各国からの新聞の見出しを飾り、彼の名声を高めました。以後アルゲリッチの活躍は目覚ましいものがあり、世界各国から招聘が殺到し、主要オーケストラのほとんどと共演を果たしています。演奏レパートリーはショパン、チャイコフスキー、バッハ、ベートーヴェン、シューマン、ラヴェルと幅広く、ロゼシアターではモーツァルト、ブラームス、リストのピアノソナタを演奏する予定です。一九



天性の才能で、世界中を魅了する鬼才ピアニスト
『イーヴォ・ポゴレリッチ・ピアノリサイタル』

※十一月十六日十九時開演 (大ホール)
S 六、〇〇〇円 A 五、〇〇〇円 チケット
B 四、〇〇〇円 学生席二、五〇〇円 好評発売中

イーヴォ・ポゴレリッチの名を一躍有名にしたのは、一九八〇年の国際ショパン・コンクールで優勝したことが原因でした。彼は第

イベント
ア・ラ・カルテ

輝く、個性・名演・感性・色彩……
いずれもひとと味違う世界があります。



前向きで輝いた生き方そのものが、
『レーナ・マリアコンサート』

※十二月一日十九時開演 (大ホール)
全席指定二、〇〇〇円

レーナ・マリア・ヨハンソン、笑顔がともてチャーミングな女性です。ゴスベルシンガーとして活躍している彼女、今度ロゼシアターのオーブニングイベントに出演することになりました。一九九一年、テレビ朝日「ニュースステーション」で三回にわたり彼女の生活が紹介され、身体障害者でありながら明るく前向きなその態度は大反響を呼びました。九二年五月には三度目の来日を果たし、コンサートツアーが行われましたが、小さな身体からあふれ出る少し低めの澄んだ歌声に聴衆は魅了され、東京、大阪など十カ所のコンサートはいずれも超満員で大成功を収めました。彼女の愛くるしい輝くような笑顔と金色の髪はとも魅力的でロゼシアターでの公演が待たれます。(七月十三日、富士市役所来訪時のインタビュー記事をご覧ください。六ページ)

五八年生まれ、今世界のピアニストの中で、もっとも刺激的な存在となっているポゴレリッチのピアノを心ゆくまで堪能ください。

●プログラム(予定につき変更もあります)
モーツァルト/幻想曲(二短調) K. 397
ショパン/夜曲(第五番) 長調 K. 265
ブラームス/カプリッチョ(嬰へ短調) Op. 76
インテルメツォ(長調) Op. 111-2
リスト/ピアノソナタ 短調



珠玉の名曲がトップアーティストの名演奏で聴ける
『前橋汀子ヴァイオリンコンサート』

※十二月三日十九時開演 (中ホール)
全席指定三、五〇〇円

コンサート、レコーディングに充実した活動を続ける前橋汀子、わが国のトップアーティストとして、内外で高い評価を受けていることは

クラシックファンなら誰でもご存知のとおりです。年一回のペースで吹き込んだディスクはどれも好評で、その都度ベストセラーを記録しています。昨年一月にはイタリア・ミラノにおいてミラノ・スカラ座弦楽合奏団とヴィヴァルディの「四季」のレコーディングを行いました。今回ロゼシアターでは、珠玉のヴァイオリン名曲を集めて、ピアニストで妹の前橋由子とコンビを組み絶妙のアンサンブルを聴かせてくれます。

●プログラム(予定につき変更もあります)
ベテリ/ヴァイオリンソナタ第四番(長調) ベテリ/ヴァイオリンソナタ第五番(長調)「S. バッハ/シロと無伴奏(第二番より) シラフスキー/アレクサンドルツァのバグナニ/ニクライエフ/編曲/カバネラ トロヒヤン/亜麻色の髪の少女(人生より) フリヤン/スベス(編曲) (人生より) シハン(シルシエ) (編曲) (シラフスキー) サンサン/シラフスキー/序奏とロンド/カプリチオリ

※十二月八日十九時開演 (大ホール)
S 四、五〇〇円 チケット発売
A 三、五〇〇円 八月十九日から

ロゼシアター開花には、各ジャンルさまざまなおアーティストによるステージ展開に注目!!

※九ページのイベントカレンダーを参考に、スケジュールをもう一度確認!!
一人でも多くの皆様のご来場をお待ちしております。

財団では現在チケットを逐次発売しております。チケットは売れ行きが早いもの、少しずつ売れて行くものなどさまざまです。あなたのお望みのチケットを一度お問い合わせください。(0545521100番でお待ちしております。九月九日から事務所移転のため(05455600・255000)に変わります。)

「人を信じる心」をテーマに、脱獄囚と知恵おくれの少女が繰り出す美しいと涙のミュージカル。

平成3年度の芸術祭賞を受賞した、俳優座公演の「復活」。トルストイの名作が、スター女優原田直之の名演により、新たな感動を生み出す。

誰もが口ずさめる、やさしさあふれるファミリーコンサート。ゲストにさとう宗幸を迎え、洋子さんの「心の歌」が響きます。

オープニング初日は、本場ウイーンのオペレッタ。フォルクスオーパー管弦楽団&メラニー・ホリデイの「カラコンサート」で華やかに幕明け。

デビュー以来、牙えわたる「さゆり演歌」も20年、円熟したゆり心を、ロゼシアター大ホールで聴かせてくれます。

龍玄の美、絶妙の間。六百余年にわたる龍玄の歴史を象徴する、「戦国龍玄」の魅力味わうチャンスです。

邦楽界の殻を破り、独自の音楽世界を創る日本音楽集団。そのとりこになった柳家小三治、話芸と邦楽のジョイントが興味深い。

澤村宗十郎 (紀伊国屋) と坂東三郎 (音羽屋) を中心とした、華やかな舞台。日本伝統芸能の1つ、歌舞伎をお楽しみ下さい。

人形、仮面、パントマイム、お神楽、舞踊、子どもから大人まで楽しめる演劇空間。



大ホール・舞台から客席をのぞむ(8月2日撮影)

“ロゼサウンドの素晴らしさを味わってください”

弦がはじける、ピアノが鳴る、歌声が響く…。ステージの熱演がそのまま客席に伝わるホールデザイン。

ロゼシアターは聴衆を知らず知らずのうちに夢の世界へ誘うゴージャスな雰囲気満ちています。

大ホールから小ホールまで横一線にレイアウトされた3つのホールは、都会の有名ホールに勝るとも劣らない音響設計が自慢です。

数々の最新技術が投入され、出来上がった「ロゼサウンド」。その秘密について、ホールの音響設計を最初から担当された

(株)永田音響設計の取締役企画設計室長・豊田泰久氏にお聞きしました。



音響調整卓



中ホール客席

ロゼシアター施設全体の音響の特徴について教えてください。

ロゼシアターには、大、中、小の三つのホールを設けてありますが、従来の公立文化施設にみられる多目的ホールをさらに発展させて、より高いレベルで音楽や演劇を鑑賞したり上演できるように、各々のホールごとに特徴を備えた主目的ホールで構成されています。大ホールは音楽を主体としたホールで、音響的には「特に音の響きの豊かな、音質の良い」ホールとして設計されており、中ホールは、演劇を主体としたホールとして「せりふが明瞭に聞こえる歯切れの良い、またスピーカーからの効果音が最大限生かせるような」音響設計がされています。さらに、小ホールはピアノの発表会などの小音楽会に最適なように工夫されています。

料と残響は大変よく似ています。量と質が重要で多すぎても少なすぎても具合が悪く、量に関していえば料理の種類、すなわち音楽や演劇の種類によって適当な量が異なります。一般的にはクラシック音楽などの生音の場合には多め、すなわち長めの残響が必要で、演劇やポップス、講演会などの場合には短めの残響が適しています。

ロゼシアターでは、音楽を主体とした大ホールがやや長めの残響、演劇を主体とした中ホールが短めの残響、小ホールは中程度の残響に設定されていますが、いずれのホールもステージに音響反射板がセットされた状態ではやや長めの残響、音響反射板が格納された状態では短めの残響となります。

三つのホール、二つの練習室、リハーサル室など盛りだくさんですが相互の音洩れの心配はないですか。

ロゼシアターではホール相互間はもちろん練習室やリハーサル室との間の遮音についても十分な配慮がされています。横に並べられた三つのホールは隣接していても各々構造的に独立して設計されており、音の伝搬の原因となる構造体がお互いにつながっていません。ホール相互は完全に離れていて、あいだに空溝があるのですが、完成後はそれらの工夫は残念ながら見えません。また、練習室やリハーサル室は床や天井、壁がすべて防振ゴムによ

聴衆にとってよりよい音の楽しみ方をアドバイスして下さい。

ホールの中で音が一番良いのはどの辺りの座席ですか、という質問をよく受けます。確かに、前の方か後ろの方か、あるいは一階席か二階席かなど、音は場所によって違います。しかし、どこが一番良いかについては、音楽の種類や演奏によっても違ってきますし、何よりも個人の趣向や好みによって異なります。比較的ステージ近くで迫力ある音を楽しみたいという「のめり込み型」の人であれば後の方でバランスよくまとまった音を静かに楽しみたい「客観型」の人もあります。要は人それぞれのスタイルですから、他人の意見に惑わされる必要はありません。最初は是非いろいろな座席でいろいろな演奏を楽しんでみて下さい。そのうち必ず、自分の好みの座席はこの辺りというのが分かってきます。



小ホール客席

各ホールの音響的な特徴についてもう少し詳しく説明して下さい。ひと目でわかるような音響的な特徴はありますか。

大ホールの特徴は何といってもその室形状で、音響の良いことで有名なウィーンの楽友協会大ホールと同じニューボックス型(天井が高く細長い長方形)を基本としたもので、側壁や天井からの反射音が効率よく客席に届くように工夫されています。また、ステージ上の音響反射板は、分割されて上部に格納されるという従来の多目的ホール型ではなく、より音響的に有利なタイプとして重量が重く一体型でステージ上を走行する形式のものが採用されています。



大ホール舞台走行式音響反射板

残響音といわれる音について教えてください。

ホール内で音が止んだ後も空間に残って響いている響き、その音を残響音と呼んでいます。特にクラシック音楽などの生音の場合に響きの働きが重要で、音量や音質などもこの響きの量や質によって大きく左右されます。料理でいえばちょうど調味料のようなもので、素材の味を生かすも殺しもあります。もっとも、もとの素材が良くない場合はいくら調味料がすぐれていても料理がおいしくない点でも調味



中ホール走行式音響反射板



小ホール音響反射板

プロフィール

豊田泰久 (とよたやすひさ)

1952年広島県生まれ。九州芸術工科大学音響設計学科卒業後、(株)永田音響設計事務所(現在の(株)永田音響設計)に入社。現在、取締役企画設計室長。これまでに福島市音楽堂、サントリーホール、広島フェニックスホール等々の音響設計に従事。現在、富士市ロゼシアターの他にロサンゼルス・ディスニーコンサートホール、京都市コンサートホール、札幌市コンサートホール等を担当中。



街の顔づくりをロゼシアターから。

NHKという大きなメディアを通じ、アナウンサーにとどまらぬ幅広い活躍をしている目加田頼子さん。富士市に生まれ、十一才からアルゼンチンへカナダへと移住。青春期を海外で過ごされた経験から、日本文化あるいは富士市のこれからの文化などをうかがいがいまました。まずは富士市の想い出から――



「小さい頃の事で多くは覚えていませんが、初めて映画を見た時、日舞を習っていた市民会館で踊ったり、ピアノの発表会をやったり、文化的な出会いはありましたが、当時の感覚で富士の文化そのものに触れたという印象は残念ながら薄いですね。」

「父の仕事は私の小さい頃から海外出張が多く、小学校卒業直前にアルゼンチンへ家族全員で行くことになったんです。アルゼンチンでは中学、高校と過ごし、その後の転勤でカナダへ移り、高校とカレッジを卒業し、帰国後、上智大学を卒業してからNHKへ入局となります。」

「私が富士にいた頃触れられなかった文化的な事を開催できる『場(ウツワ)』が出来たことは、とても素晴らしい事だと思います。でも、どうも富士市は中途半端な位置にあるように思えるんです。東京へは通勤圏になる程近くなり、見たいコンサートも日帰りで行ける距離

離ですね。そうすると、東京へ行く人達をどれだけロゼシアターに引きつけられるかになります。どの地方にも表面化していない文化水準を持った方がいますし、その人達をどう触発して行くかという事も重要です。さきほど外国の地方には独特の顔があると言いましたが、ロゼシアターあるいは富士市がどういった顔づくりが出来ていくかですね。財団として顔を持ち、方向性や意義づけ、コンセプトを打ち出して行かないと変わらないし、『場』だけができては通り過ぎるだけの物にならないよう頑張らなければいけません。富士市は企業の街というイメージが強いので、ロゼシアターは市民の物としての展開をしてほしいですね。」

「今、NHKも民放もハイビジョン・クリアビジョン、新たな衛星放送の開設など、ハード面がとも進化し、家庭におけるテレビの位置づけも大きく変化しています。さらにケーブルテレビや香港のスターテレビの日本進出などを考えると、日本アジア・世界への対応もあるでしょう。どうなるか予想はとても難しいですね。私個人としては、マルチよりこれからは、より高度な専門化の時代、それを踏まえて多方面に活躍できる融通性をもった人の時代とおっしゃっています。」

澄んだ歌声は、生き生きとした笑顔の喜び。

皆さんは、レーナ・マリア・ヨハンソンという名を聞いたことがありますか。一九六八年生まれの、まだ二十代半ばのスウェーデン女性です。生まれた時から両腕がなく、左脚も右脚の半分の長さという、原因不明の障害を負いながら、『私は自分が障害者だと思ったり、ハンディキャップに対して腹立たしく感じたり、悩んだりしたことはありません。神さまは、きつと何か特別な計画があって、私をこのように造られたのだと思っています』と語ります。

や文化・伝統を大事にしているように感じます。北欧では、より現代的に生きる傾向が多く、昔を忘れようとしている傾向にあります。私は今、次のCDの制作に取り組んでいます。スウェーデンで最も古いといわれる楽器(日本の琴のような楽器)を使ったレパートリーを考えているんです。スウェーデンといえば、社会福祉国家で有名。文化面での援助など、政府は文化・芸術のためにとてもよく支援してくれまして。企業も一部ではスポンサーになってくれています。でも今は国自体がとも不況で、文化や芸術も最初にかットされるもの一つになっています。アーティストの一人として、とても残念だと言っています。



そのアーティストとしてのレーナさん、ゴスペルソングをあまりよく知らない人に説明するのなら「現代ではジャズやソウルというジャンルと同じように、一つの分け方として確立しています。もとはキリスト教徒、特にアメリカに連れてこられた黒人の教会から始まったものです。今では神への賛歌や黒人霊歌等にジャズ・ソウルなどの要素も加わり、ポピュラーなどではエルビス・プレスリー、レイ・チャールズなどが歌ったゴスペルもゴスペルソングと言っています。」

「十二月一日にはロゼシアターで、その屈託のない愛くるしい笑顔と、美しく澄んだ歌声に触れることができます。富士市の皆さんに「新しく出来るコンサートホールで歌えることを、とても楽しみにしています。そして、私が今まで経験してきたことや、そのことに対しての励まし、喜びを感じ取っていただければ、これほどうれしいことはありません」と語った。



レーナ・マリア・ヨハンソン

PROFILE

1968・9・28、スウェーデン中南部ハーボに生まれる。
出生時から両腕と左脚の半分が欠損という原因不明の障害を負う。
3歳で水泳を始め、5歳で教会の子ども聖歌隊に加わる。1986年、世界障害者水泳選手権で金メダル2、銅メダル1を獲得。
1987年、ストックホルム音楽大学現代音楽科入学。
欧州障害者水泳選手権で4つの金メダル獲得。
1988年、ソウルでのパラリンピック出場の帰途、初来日。
スウェーデン国営TVで彼女のドキュメンタリー「目標に向かって」が高視聴率を記録。
欧州各国で放映。1991年、ストックホルム音楽大学卒業。
テレビ朝日「ニュースステーション」で3回にわたり紹介。大反響を呼ぶ。
2度目の来日。全米8州約50カ所でコンサート開催。
ファーストアルバム「レーナ&アンダース」制作・発売。
1992年、3度目の来日。東京・大阪など10カ所で日本初のコンサート。
今回で5度目の来日。10月末より日本各地でコンサート開催の予定。
12月1日にはロゼシアターに登場。ライブCDも出し、現在セカンドアルバム制作中。



目加田頼子

PROFILE

めかた よりこ/静岡県富士市生まれ。
小学校(吉原小)卒業前に、家族と共にアルゼンチンに移住。
中学、高校を経て、5年後カナダへ移る。そこで大学(カレッジ)を卒業、4年後帰国、上智大学外国語学部に入局し、昭和58年3月卒業。
同年4月NHK(アナウンス室)入局。「NHKニュースワイド」「サンデースポーツスペシャル」「NHKナイトワイド」「NHKニューストゥデー」「歴史誕生」「自然のアルバム」などのキャスター、リポーターとして活躍。
この間、紅白歌合戦(昭和61年)で紅組司会を担当。現在はスペシャル番組を多く手掛け、昨年はオリンピック(アルペールビル、バルセロナ)やパリ〜モスクワ〜北京マラソンラリーなど1年の内5カ月は海外取材。
アナウンサー、キャスター、リポーターに加え、講演や雑誌の執筆など、日本全国・海外各国を飛び回り、多岐に仕事をこなしている。

